

# 九州運輸局メールマガジン

## 第410号 令和元年6月13日(木)

### 運輸安全だより (安全取組事例の紹介)

安全評価システム導入時10年以上大きな事故は発生していなかったが、トラブル発生の潜在要因は存在し、予防に対するなんらかの取組が必要となったため、安全評価システムの再活用を開始しました。

### 安全文化の醸成を目指し、職場実態に即した取組項目の立案と目標達成度の定量評価を行い、PDCAサイクルを確立する。

安全評価システムは、個人の意識・行動、組織の安全管理、組織の職場風土の3要素をアンケート方式により数値化し、部門全体と管理職及び一般職に分けて分析・評価し、部門としての取組項目、目標設定を行い一年を通じた業務計画書に明記していきます。取組項目の決定にあたっては、弱みの改善、強みの強化のどちらでもよく、部門毎に項目設定することとしています。

#### 1. 安全に関する3要素の内容

- ①意識・行動・・・業務意欲、業務感覚、事前承認、規則遵守、意識行動、安全重視
- ②安全管理・・・遵守姿勢、行動明確化、安全教育、顕在リスク、潜在リスク、安全活動、安全管理
- ③職場風土・・・暗黙ルール、職場伝統、強調性、上下関係、コミュニケーション、役割分担、管理職姿勢

#### 2. 評価方法・評価回数

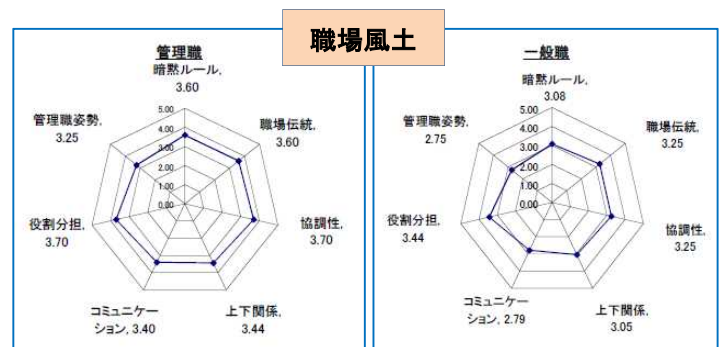
質問は、それぞれの内容に1～5ポイントを設定し、個人の意識・組織としての考え方・職場のルール等について5段階で評価します。経営管理部門も含め社員全員に実施し、回答率は9割程度です。

年2回上期、下期に評価を実施。上期の評価結果を受け年度途中で取組みの見直し等を実施し、下期の評価結果で次年度の取組項目を決定し、安全目標につなげます。(継続も可としている)また、毎年実施することで経年の変化も確認できます。

#### 3. 評価結果の活用

ISO9001の目標管理とも整合をとっており、マネジメントレビューのインプット情報として社長報告、アウトプットによる取組項目、目標設定等の指示で継続的改善を図っています。

具体的な取組内容は、目標に合わせ各部門にて企画・実施。これにより、目標とした管理職姿勢、コミュニケーション、暗黙のルールのポイントアップが得られました。



#### 4. システムの特徴

- ・定量評価により目標設定を行うことができる。
- ・少人数の職場では、1人の評価で大きく変わるため、質問の取り間違えがないように明確化する必要があります。

取り組む目的が明確化され、数値評価できるため、PDCAサイクルが廻し易くなり、継続的な改善も量れるようになった。なお、本システム導入以降、無事故運航を続けています。